

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択)中間評価結果

機関名	久留米大学	拠点番号	F35
申請分野	医学系		
拠点プログラム名称 (英訳名)	先端的な癌治療研究の拠点 (Research Center of Innovative Cancer Therapy)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野: 医学系〉(ワクチン)(肝臓癌)(分子標的治療)(探索的研究)(テーラーメイド医療)		
専攻等名	先端癌治療研究センター及び医学研究科個別最適医療系専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー名)	伊東 恭悟 教授	他 32名

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等: 大学からの報告書(平成17年4月現在)を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について> 本拠点の学問分野は癌治療学(clinical oncology)である。即ち、癌に対する新規治療薬や治療法の研究開発の基礎および臨床研究を行う分野である。</p>
<p><本拠点の目的> 世界最高水準の「先端的癌治療研究」を実施し、新規の癌治療薬や治療法を開発し癌征圧をもって地域と世界に貢献する。具体的には以下の3プロジェクトの世界的な拠点を形成する。①テーラーメイド癌ペプチドワクチン研究拠点 ②肝癌予防/肝癌治療研究拠点 ③癌分子標的治療研究拠点。</p>
<p><計画: 当初目的に対する進捗状況等> 極めて順調に進展している。とりわけ、肝癌予防と前立腺癌治療へのテーラーメイドペプチドワクチン開発研究が進展しており、その成果を受けて平成15年度内に肝癌センターを設立した。更に、平成17年度には前立腺センターを開設して世界拠点への第一歩とする予定である。</p>
<p><本拠点の特色> 当該COE事業では、平成8年度設立以来多くの実績をあげてきた「先端癌治療研究センター」を中軸として、世界トップレベルの人材登用/育成と大規模かつ独創的な産学地域連携をもって、先端癌治療研究の世界的拠点を形成する。いずれの研究も、ポストゲノム時代の医学・医療の方向性、即ち個人に最適な医学・医療(個別最適医療と略す: テーラーメイド医療/高いQOL/低い医療費)開発を癌治療学分野で目指すところに独自性がある。その目的実現のため、20世紀では実現できなかった生体防御の仕組みを活用する2大アプローチ(1. 免疫多型を活用したテーラーメイド癌ペプチドワクチン 2. 癌の分子標的治療)をもって創薬化に直結する探索的臨床研究を推進する。これらのプロジェクトは知る限りにおいては国内外で初めてである。ユニークな具体例を以下に記す。: ①がんワクチン部門の癌に対するテーラーメイドペプチドワクチン開発の基礎および臨床研究は世界をリードしつつある。世界に先駆けて多くの上皮癌関連抗原遺伝子を同定し、その成果を用いての、免疫多型を活用したテーラーメイド型治療は世界で初めて大腸癌、前立腺癌、脳腫瘍などで著効症例を得た。②肝癌グループで開発中のウイルス抗原由来CTLペプチドや同ペプチドに対する抗体は全く新規なものであり、ブレイクスルーとして期待される。更にC型肝炎ウイルス消失を目的としたテーラーメイドペプチドワクチン臨床試験において2例のウイルス消失例を世界で始めて経験した。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性> 重要性: 癌は我が国の国民死亡原因の第一位を占め、年間約30万人が癌により死亡するとともに年間約50万人が新たに癌に罹患しており、国民の最も関心の高い疾患である。さらに世界に視野を広げた場合年間800万人以上が癌に罹患している。癌の予防・治療は社会的、経済的にも我が国の科学行政における中心的柱であるとともに、治療法開発は科学技術立国を目指すわが国の国策ともなっている。これらから先端的癌治療研究は我が国のみならず世界において21世紀の待望される極めて重要な分野であるといえる。 発展性: 肝癌予防と前立腺癌治療へのテーラーメイドペプチドワクチン開発研究が急速に発展しており、平成15年度に肝癌センターを設立した。平成17年度には前立腺センターを開設して世界拠点への第一歩とする予定である。平成17年度には大学発ベンチャーによるテーラーメイドペプチドワクチンの治験が開始される予定であり、創薬化に向けて順調に発展している。地域連携においても久留米地域の経済振興を科学技術駆動型にするために、福岡県・久留米市・久留米大学医学部は福岡バイオバレー構想の下に、先端癌治療研究拠点形成を中軸として産学官連携を強化しつつある。</p>
<p><本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果> 1) 新しい抗癌薬が提供される。2) 大学の研究拠点形成を介しての大きな経済波及効果を医薬産業分野にもたらす。3) 世界各地より患者や家族が本拠点に集まり、科学技術駆動型の地域経済が隆盛する。4) 新しい癌医学・医療の担い手や若手研究者が本研究拠点より育成される。</p>
<p><本拠点における学術的・社会的意義等> 1) 生体防御の仕組みを利用したテーラーメイド癌治療の幕開けとなる。2) 探索的臨床研究の創薬における大きな役割が明確となる。3) 高齢化社会における我が国の国民の健康と生命を守ることに貢献できる。4) 我が国におけるバイオ産業創造を促し、大きな経済波及効果をもたらす。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>
<p>(コメント) 癌のペプチドワクチンに関する基礎と開発研究は順調に進展しており、これを中心とした連携体制も整備され、研究の計画、実践における訓練、倫理面にも配慮がなされている点は高く評価される。今後の改善に向けて以下のコメントをしたい。 人材育成については、バイオインフォマティクスの人材育成には注力されている点は評価されるが、若手セミナーや癌フォーラムなどの一般的な対応等に加え、基礎及び臨床研究の現場で、より多くの若手研究者を質的・量的に支援する対策を考慮し具体化していただきたい。また、真に患者のための臨床研究を推進できる臨床研究者の育成に向けた具体的な対策が望まれる。 有機的連携については、分子標的治療分野の強化が大幅になされたが、この分野と他の2分野との連携をさらに明確にし、効果的なものとするのが望まれる。 研究活動については、ペプチドワクチンの基礎的開発はよく進展しているが、一般医療への移行戦略を具体的に明確にすることが必要である。</p>